



Sun Fire™ X2270 サーバー 設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7783-10, Revision A
2009年3月

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Solaris、Sun Fire、Sun Solve、Sun Service、および SunVTS は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における、Microsoft Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。Windows は、米国およびその他の国における、Microsoft Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに v

1. Sun Fire X2270 サーバーハードウェアの設定 1
 - 安全性とコンプライアンスに関する情報 1
 - 設置プロセスの計画 2
 - パッケージ内容のリスト 3
 - オプションのスライドレールによるサーバーのラックへの取り付け 3
 - ケーブルの接続 4
 - ▼ ケーブルを接続する 4
 - サーバーの電源投入と電源切断 6
 - ▼ サービスプロセッサの初期構成用にスタンバイ電源を入れる 6
 - ▼ 主電源モードに入るには 8
 - ▼ 主電源モードを切断する 9
 - 設定に関するトラブルシューティングとサポート 10
 - Sun Fire X2270 サーバーの設定のトラブルシューティング 10
 - サポートの連絡先 12
2. Sun Fire X2270 サーバーソフトウェアの設定 15
 - Sun Integrated Lights Out Manager の紹介 16
 - ILOM サービスプロセッサへの接続 17

シリアル接続を使用した ILOM への接続	17
▼ シリアル接続を使用して ILOM に接続する	18
Ethernet 接続を使用した ILOM への接続	19
動的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成	19
▼ DHCP を使用して ILOM Ethernet 設定を構成する	19
静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成	22
▼ Web インタフェースを使用して静的 IP アドレスを設定する	22
▼ CLI を使用して静的 IP アドレスを設定する	23
▼ BIOS 設定ユーティリティーを使用して静的 IP アドレスを設定する	24
プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアの設定	25
3. プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの設定	27
作業を開始する前に	27
インストールのためのワークシート	28
コンソール出力の選択	31
プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの設定	32
▼ サービスプロセッサの IP アドレスを使用してサーバーに接続するには	33
▼ 端末プログラムを使用してサーバーに接続するには	34
Solaris 10 オペレーティングシステムのユーザー情報	36
Solaris 10 OS のユーザードキュメントへのアクセス	36
Solaris 10 OS ソフトウェアのダウンロード	36
Solaris 10 OS のトレーニング	36
索引	37

はじめに

『サーバー設置マニュアル』では、ラックへのサーバーの設置、サービスプロセッサへの接続、およびプリインストールされた Solaris™ オペレーティングシステムの設定に関する手順を説明します。

関連マニュアル

この節の表で示すドキュメントは、次の場所からオンラインで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/servers?l=ja>

このサイトで、Sun Fire™ X2270 サーバーを検索してください。

注 - ドキュメントの Part No. の最後の 2 桁は、ダウンロードできる (またはオンラインで表示できる) 製品ドキュメントの最新バージョンを示します。たとえば、820-xxxx-XX などです。

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Fire X2270 サーバーご使用にあたって』	サーバーに関する最新情報。	820-7795	PDF HTML
『Sun Fire X2270 サーバーご使用の手引き』	サーバーを設定するための基本的なインストール情報。	820-7780	PDF 印刷
『Sun Fire X2270 サーバー設置マニュアル』	サーバーを設定するための詳細なインストール情報。	820-7783	PDF HTML 印刷オプション

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Fire X2270 サーバー Linux および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』	Solaris および Linux サーバーオペレーティングシステムのインストール手順。	820-7786	PDF HTML
『Sun Fire X2270 サーバー Windows オペレーティングシステム インストールガイド』	Windows サーバーオペレーティングシステムのインストール手順。	820-7789	PDF HTML
『Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』	Linux および Windows サーバーオペレーティングシステムで Sun Installation Assistant を使用するためのインストール手順。	820-6352	PDF HTML
『Sun Fire X2270 Server Service Manual』	サーバーの保守とアップグレードに関する情報と手順。	820-5607	PDF HTML
『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』	ILOM をサポートするサーバーとサーバーモジュールに共通の ILOM 機能と作業。	820-2698	PDF HTML
『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 2.0 補足マニュアル Sun Fire X2270 サーバー』	サーバーに固有の ILOM に関する情報。	820-7792	PDF HTML
『Sun Fire X2270 Server Safety and Compliance Manual』	サーバーのハードウェアの安全性とコンプライアンスに関する情報。	820-5605	PDF
『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』	すべての Sun ハードウェアシステムに関する多言語でのハードウェアの安全性とコンプライアンスに関する情報。	816-7190	印刷
『Accessing Sun Product Documentation』	Sun のオンラインドキュメントへの URL を示す多言語情報。	820-0541	印刷

サポートとトレーニング

Sun のサービス	URL
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

製品のアップデート

ダウンロードできる Sun Fire X2270 サーバーの製品更新については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

「Hardware Drivers」セクションを探し、「x64 Servers & Workstations」をクリックします。Sun Fire X2270 サーバーのサイトには、ファームウェアとドライバの更新、および CD-ROM の .iso イメージがあります。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、次のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire X2270 サーバー設置マニュアル』、Part No. 820-7783-10

第1章

Sun Fire X2270 サーバーハードウェアの設定

この章では、Sun Fire™ X2270 サーバーハードウェアの設定方法について説明します。この章では、次の項目について説明します。

- 1 ページの「安全性とコンプライアンスに関する情報」
- 2 ページの「設置プロセスの計画」
- 3 ページの「パッケージ内容のリスト」
- 3 ページの「オプションのスライドレールによるサーバーのラックへの取り付け」
- 4 ページの「ケーブルの接続」
- 6 ページの「サーバーの電源投入と電源切断」
- 10 ページの「設定に関するトラブルシューティングとサポート」

安全性とコンプライアンスに関する情報

Sun Fire X2270 サーバーに関する安全上の注意については、次のマニュアルを参照してください。

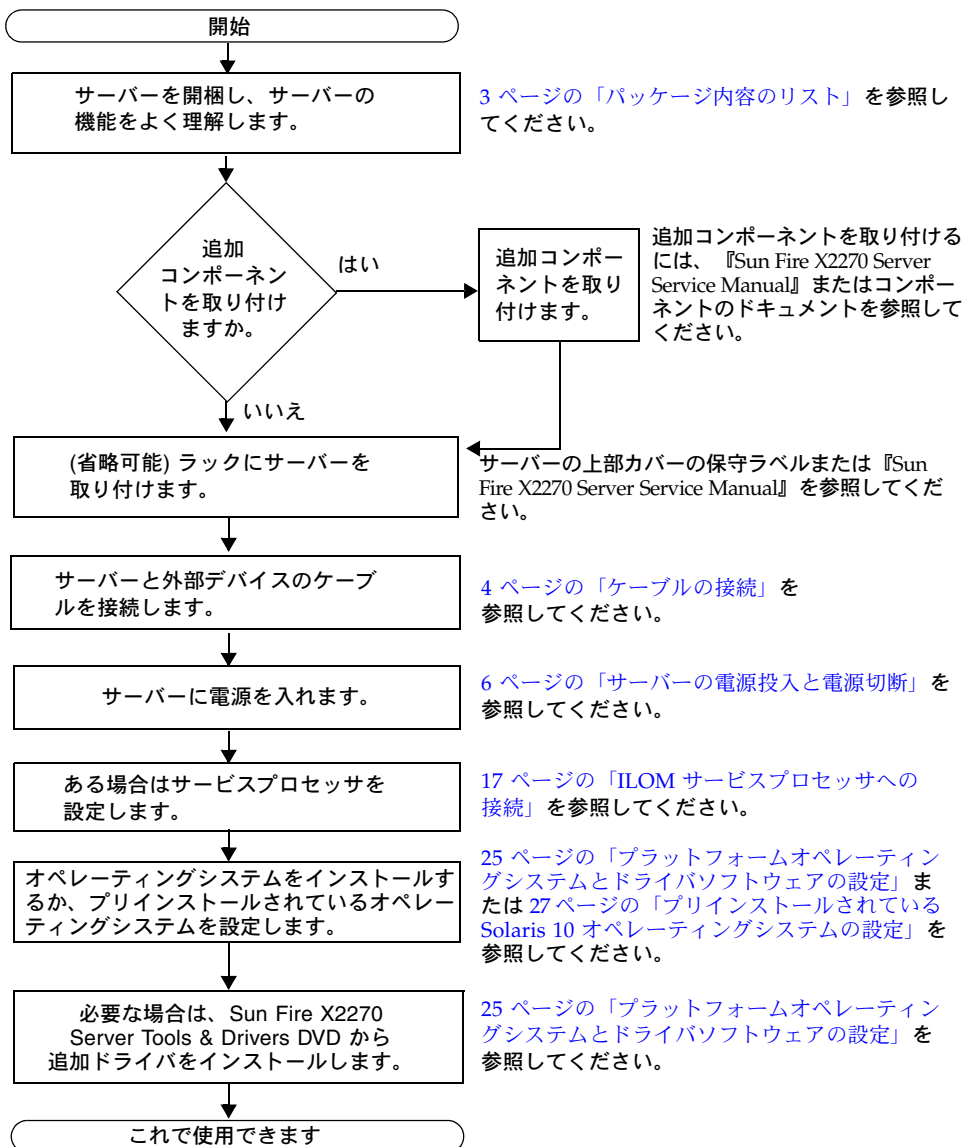
- 『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』(816-7190): 出荷キットに入っている印刷版ドキュメント。
- 『Sun Fire X2270 Server Safety and Compliance Manual』(820-5605): オンラインで次の URL から Sun Fire X2270 サーバーのドキュメントページに移動して入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/servers?l=ja>

設置プロセスの計画

サーバーの設置プロセスについては、[図 1-1](#) のフローチャートを参考にしてください。

図 1-1 Sun Fire X2270 サーバーの設置プロセス



パッケージ内容のリスト

注意しながら、すべてのサーバーコンポーネントの開梱を行います。Sun Fire X2270 サーバーに同梱されている場合があるアイテムは次のとおりです。

- Sun Fire X2270 サーバーベースドキュメントキット。次のものが含まれます。
 - 『Sun Fire X2270 サーバーご使用の手引き』 (820-7780)
 - ライセンスと安全性についてのドキュメント
- (オプション) Sun Fire X2270 サーバーのドキュメントとメディアキット。次のものが含まれます。
 - 『Sun Fire X2270 サーバー設置マニュアル』 (820-7783)
 - 『Accessing Sun Product Documentation』 (820-0541)
 - Tools & Drivers DVD (ドライバおよび追加のソフトウェアが収録されています)
 - Sun Installation Assistant (SIA) CD/DVD
 - SunVTS CD/DVD
 - ライセンスと安全性についての追加ドキュメント
- アダプタやネットワークケーブルなど、システムに適用可能なハードウェア
- カントリーキットとは別に梱包されている電源コード
- (オプション) ラックレールと取り付け手順が含まれているラックマウントキット

オプションのスライドレールによるサーバーのラックへの取り付け

Sun Fire X2270 サーバーの上部カバーの保守ラベルに、注文可能なオプションのスライドレールとケーブル管理アームを使用して、サーバーを 4 ポストラックに取り付ける手順が記載されています。詳細な説明は、次の URL にある『Sun Fire X2270 Server Service Manual』 (820-5607) でも参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/servers?l=ja>

Sun Fire X2270 サーバーのスライドレールは、次の規格を満たす広範な装置ラックに対応しています。

- 4 柱構造 (前面と背面の両方に設置可能)。2 ポストのラックにはマウントできません。
- ラックの水平開口部とユニットの垂直ピッチが ANSI/EIA 310-D-1992 規格または IEC 60927 規格に準じていること。

- 前面取り付け面と背面取り付け面の距離が 610 - 915 mm (24 - 36 インチ) であること。
- 前面ラック取り付け面からキャビネット前面ドアまでの間隔が 25.4 mm (1 インチ) 以上であること。
- 前面ラック取り付け面からキャビネット背面ドアまでの間隔が、ケーブル管理アームを使用する場合は 800 mm (31.5 インチ) 以上、ケーブル管理アームを使用しない場合は 700 mm (27.5 インチ) 以上であること。
- 前面取り付け面と背面取り付け面の間隔 (構造的支柱とケーブルの溝の間隔) が 456 mm (18 インチ) 以上であること。



注意 – サーバーは必ず下から先にラックへ取り付けてください。上から順に取り付けるとラックが不安定になり、転倒する危険が生じます。機器の取り付け中にラックが転倒しないように、ラックの転倒防止バーを設置します。



注意 – ラック内の温度がサーバーの最大周辺温度を超えないようにしてください。ラック内に取り付けられているすべての装置の全体的な空気循環の要件を考慮して、装置が指定の温度範囲内で動作するようにしてください。

ケーブルの接続

コネクタの位置については、[図 1-2](#) および [表 1-1](#) を参照してください。

▼ ケーブルを接続する

次のようにして、サーバーと外部装置を接続します。

1. シリアルヌルモデムケーブルをシリアルポートに接続します。
デフォルトシリアルポート速度は、フローコントロールなしで 9,600 ボーです。
2. 必要に応じて、Ethernet ケーブルを RJ-45 LAN ギガビット Ethernet ポートに接続します ([図 1-2](#) を参照)。

Ethernet (NET) ポートについては、次のガイドラインに注意してください。

- サーバーの管理とネットワークアクセスには、オプションの SP モジュールのネットワーク管理 (NET MGT) Ethernet ポート、またはシリアル管理 (SER MGT)/RS-232-F RJ-45 シリアルポートを使用できます。

リモートシステム管理用のサービスプロセッサ (Service Processor, SP) の設定に関する追加情報については、15 ページの「[Sun Fire X2270 サーバーソフトウェアの設定](#)」を参照してください。

- 2つのギガビット Ethernet ポート (NET-0 と NET-1) が主ネットワークインタフェースコントローラ (Network Interface Controller, NIC) であり、オペレーティングシステムとドライバのネットワークインストールにはこれを使用するようにしてください。

3. 追加の外部装置はサーバーのほかのポートに接続します。

図 1-2 背面パネル

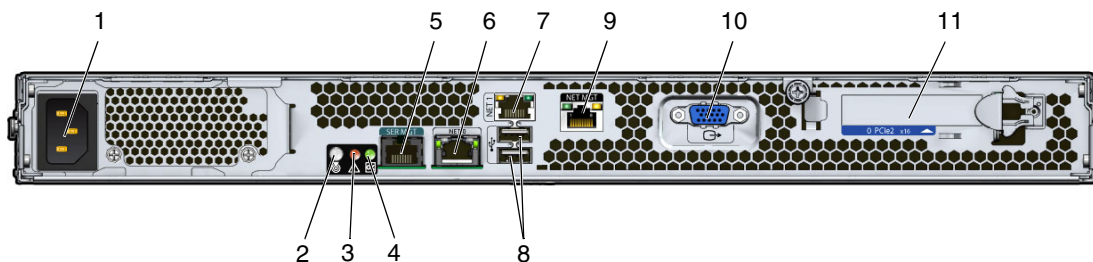


表 1-1 背面パネル

ラベル	コネクタ/スロット	ラベル	コネクタ/スロット
1	AC 電源コネクタ	7	ギガビット Ethernet ポート (NET-1)
2	白色の位置特定 LED	8	USB 2.0 ポート (2)
3	オレンジ色の障害 LED	9	ネットワーク管理 (NET MGT) Ethernet ポート (SP モジュールを備えるシステムのみで使用可能)
4	緑色の電源/OK LED	10	HD15 ビデオコネクタ (SP モジュールを備えるシステムのみで使用可能)
5	シリアル管理 (SER MGT) / RS-232-F RJ-45 シリアルポート	11	PCI Express スロット
6	ギガビット Ethernet ポート (NET-0)		

サーバーの電源投入と電源切断

サービスプロセッサ (Service Processor、SP) の初期構成を実行するには、この時点では、サーバーのスタンバイ電源のみを入れておく必要があります。参考のため、主電源モードで電源を入れる手順と、主電源モードから停止する手順についても、この節で説明します。

注 – サービスプロセッサの初期構成用にスタンバイ電源を入れる手順は、オプションのサービスプロセッサモジュールを備えるシステムにのみ適用できます。システムがサービスプロセッサを備えていない場合は、[8 ページ](#)の「[主電源モードに入るには](#)」の手順を続けます。

▼ サービスプロセッサの初期構成用にスタンバイ電源を入れる

初期構成の前に、サービスプロセッサのスタンバイ電源を入れるには、次の手順を実行します。



注意 – 必ず、ファン、コンポーネントヒートシンク、エアバッフル、カバーをすべて取り付けて、サーバーを操作してください。適切な冷却メカニズムがない状態でサーバーを操作すると、サーバーのコンポーネントに深刻な損傷を与えます。

1. アースされた AC 電源コードを、サーバーの背面パネルの AC 電源コネクタと、アースされた AC 電源コンセントに接続します。

スタンバイ電源モードでは、フロントパネルの電源/OK LED が点滅し、SP が通電していることを示します。取り外し可能ハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) を備えた Sun Fire X2270 については[図 1-3](#) および[表 1-2](#) を、固定ハードディスクドライブを備えた Sun Fire X2270 については[図 1-4](#) および[表 1-3](#) を参照してください。

図 1-3 取り外し可能ハードディスクドライブがある場合のフロントパネル

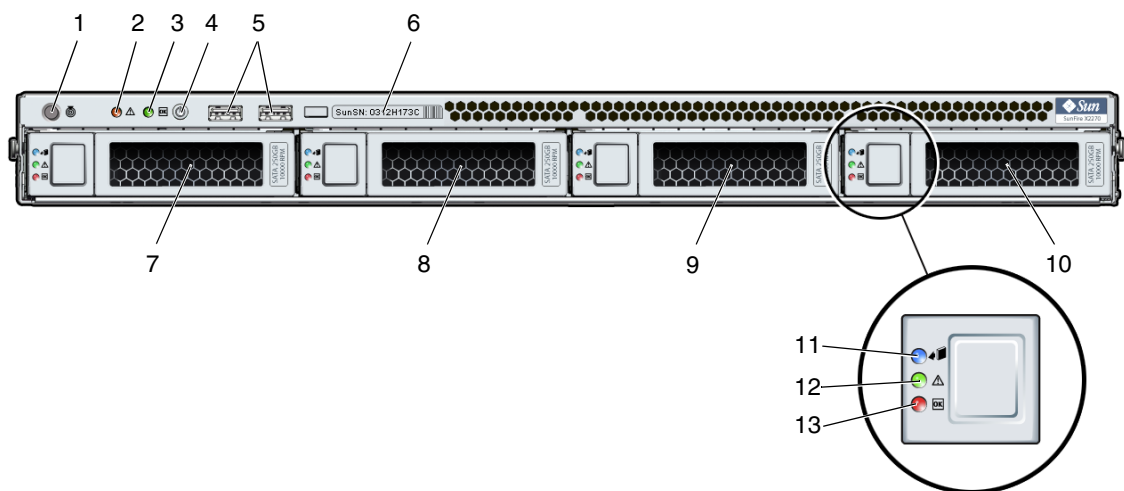


表 1-2 取り外し可能ハードディスクドライブがある場合のフロントパネル

ラベル	ボタン/LED/ポート	ラベル	ボタン/LED/ポート
1	白色の位置特定 LED/スイッチ	8	オプションの取り外し可能 SATA HDD 1
2	オレンジ色の障害 LED	9	オプションの取り外し可能 SATA HDD 2
3	緑色の電源/OK LED	10	オプションの取り外し可能 SATA HDD 3
4	電源ボタン	11	ディスク取り外し可能 LED – 非動作
5	USB 2.0 ポート (2)	12	ディスク保守要求 LED – 非動作
6	システムシリアルラベル	13	緑色のディスク OK LED – HDD との間でデータが読み書きされていることを示します
7	オプションの取り外し可能 SATA HDD 0		

図 1-4 固定ハードディスクドライブがある場合のフロントパネル

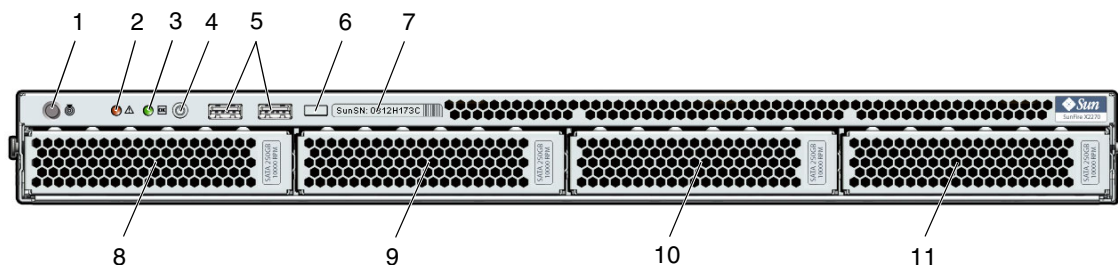


表 1-3 固定ハードディスクドライブがある場合のフロントパネル

ラベル	ボタン/LED/ポート	ラベル	ボタン/LED/ポート
1	白色の位置特定 LED/スイッチ	7	システムシリアルラベル
2	オレンジ色の障害 LED	8	オプションの固定 SATA HDD 0
3	緑色の電源/OK LED	9	オプションの固定 SATA HDD 1
4	電源ボタン	10	オプションの固定 SATA HDD 2
5	USB 2.0 ポート (2)	11	オプションの固定 SATA HDD 3
6	HDD アクティビティ LED		

2. 第 2 章の説明に従って、ソフトウェアの初期設定作業を続行します。

注 – この時点では、スタンバイ電源はサービスプロセッサおよび電源装置のファンにのみ供給されています。このマニュアルの第 2 章に進んで、初期設定を開始できます。プラットフォームのオペレーティングシステムをインストールする準備が整うまで、サーバーのほかの部分には主電源を入れないでください。

▼ 主電源モードに入るには

注 – システムが SP モジュールを備えていない場合は、[手順 2](#) から始めます。

すべてのサーバーコンポーネントの主電源を入れるには、以下の手順に従います。

1. サーバーに電源コードが接続されていることを確認します。サーバーが SP モジュールを備えている場合は、スタンバイ電源が入っていることを確認します。
SP モジュールを備えるサーバーの場合、スタンバイ電源モードでは、フロントパネルの電源/OK LED が点滅します。サーバーの構成に応じて、[図 1-3](#) または [図 1-4](#) を参照してください。
2. サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してから離します。
主電源がフルサーバーに適用されると、電源ボタンの隣にある電源/OK LED が点灯し、そのまま点灯しつづけます。

注 – サーバーの電源を初めて入れたときは、電源投入時自己診断 (Power-On Self-Test, POST) が完了するのに 1 分程度かかる場合があります。

▼ 主電源モードを切断する

- 主電源モードからサーバーの電源を切るには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。
 - **正常な停止:** フロントパネルにある電源ボタンを押してから離します。この操作により、Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 対応のオペレーティングシステムは、オペレーティングシステムの正常な停止を実行します。ACPI 対応のオペレーティングシステムが動作していないサーバーは、すぐに停止してスタンバイ電源モードになります。
 - **緊急の停止:** 電源ボタンを 4 秒以上押しつづけて、強制的に主電源を切って、スタンバイ電源モードに入ります。主電源がオフになると、フロントパネルにある電源/OK LED が点滅し (SP モジュールを備えるシステムのみ)、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。



注意 – サーバーの電源を完全に切断するには、サーバーの背面パネルから AC 電源コードを取り外します。

設定に関するトラブルシューティングとサポート

この節には、サーバーの設定に関連する軽度の問題のトラブルシューティングに役立つ情報が含まれています。この章では、次の項目について説明します：

- 10 ページの「Sun Fire X2270 サーバーの設定のトラブルシューティング」
- 12 ページの「サポートの連絡先」

Sun Fire X2270 サーバーの設定のトラブルシューティング

サーバーの設置中に問題が発生した場合は、表 1-4 のトラブルシューティングに関する情報を参照してください。

表 1-4 トラブルシューティングの手順

問題	問題への対処方法
サーバーの電源がオンなのに、モニターの電源がオンになりません。	<ul style="list-style-type: none">• モニターの電源ボタンがオンになっていることを確認してください。• モニターの電源コードが電源コンセントに接続されていることを確認してください。• 電源コンセントに電力が供給されていることを確認してください。確認するには、別のデバイスを接続してテストしてください。
モニター画面にビデオが表示されません。	<ul style="list-style-type: none">• モニターケーブルがビデオコネクタに接続されていることを確認してください。• サーバーが SP モジュールを備えているかどうかを確認してください。サーバーが SP モジュールまたはオプションのビデオカードを備えていない場合は、ビデオは、サーバーシリアルポートにルーティングされます。モニターをサーバーのシリアルポートに接続してください。• モニターが、別のシステムに接続された場合に動作することを確認してください。• 別のモニターがある場合は、そのモニターを元のシステムに接続して動作するかどうかを確認してください。• POST および BIOS の完了後に、モニターにビデオ出力が表示されなくなり、点滅するカーソルのみが表示される場合は、オペレーティングシステムの構成を確認して、シリアル回線上で排他的に出力をリダイレクトするように構成されているかどうかを調べてください。

表 1-4 トラブルシューティングの手順 (続き)

問題	問題への対処方法
前面パネルにある電源ボタンが押されているのに、サーバーの電源がオンになりません。	<p>サービス担当者に連絡する必要がある場合は、次の状況を書き留めておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムの前面の電源/OK LED が点灯されるかどうか確認してください (電源コードが、システムおよび接地電源コンセントに接続されていることを確認してください)。 • 電源コンセントに電力が供給されていることを確認してください。確認するには、別のデバイスを接続してテストしてください。 • 電源の投入後 5 分以内にモニターが同期することを確認してください (モニターの緑色の LED が点滅を停止し、点灯状態になります)。
キーボードまたはマウスが操作に反応しません。	<ul style="list-style-type: none"> • マウスおよびキーボードのケーブルが、サーバー上のオンボード USB 2.0 コネクタに接続していることを確認してください。 • サーバーの電源がオンで、前面の電源/OK LED が点灯していることを確認してください。
サーバーが低電力モードのようだが、電源/OK LED が点滅しません。	<p>すべてのサーバー部品が低電力モードのときは、電源/OK LED が点滅します。テープドライブがサーバーに接続されている可能性があります。テープドライブは低電力モードにならないので、電源/OK LED は点滅しません。</p>
サーバーがハングしたり、動かなくなったりします。サーバーがハングしたり、動かなくなったりします。	<p>ネットワーク上の別のサーバーからシステムにアクセスしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 別のシステム上で、 ping IP_address_of_X2270 と入力します。 2. 応答が返されたら、 telnet、 ssh、または rlogin のいずれかを使用して Sun Fire X2270 サーバーにログインします。 3. 正常にログインしたら、 ps コマンドを使用して、実行中のプロセスを一覧表示します。 4. kill process_ID コマンドを使用して、応答していないプロセスや実行されるべきでないプロセスを終了します。 5. 該当する各プロセスを終了するたびに、Sun Fire X2270 サーバーの応答性を確認します。 <p>この手順を使用して問題を解決できない場合は、サーバーの電源を再投入します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電源ボタンを押してサーバーの電源をオフにしてから、20 ~ 30 秒間待機します。 2. 電源ボタンをふたたび押してシステムの電源を入れます。

注 - ほかのトラブルシューティング情報については、『Sun Fire X2270 Server Service Manual』(820-5607)を参照してください。

サポートの連絡先

この章のトラブルシューティング手順を実行しても問題が解決しない場合は [表 1-5](#) を使用して、サポート担当者に伝える必要がある可能性のある情報を収集します。[表 1-6](#) で、追加技術サポートのための Sun Web サイトと電話番号を一覧表示します。

表 1-5 サポートに必要なシステム情報

必要なシステム構成情報	お客様の情報
Sun サービス契約番号	
システムモデル	
オペレーティング環境	
システムのシリアル番号	
システムに接続されている周辺装置	
お客様の電子メールアドレスと電話番号、および代理の連絡先 システムの設置場所の住所	
スーパーユーザーパスワード	
問題の概要と、問題が発生したときに実行した操作内容	
その他の役に立つ情報	
IP アドレス	
サーバー名 (システムのホスト名)	
ネットワークまたはインターネットのドメインネーム	
プロキシサーバー構成	

表 1-6 Sun 技術サポートの連絡先

サーバーのドキュメントおよびサポートリソース	URL または電話番号
現在の Sun Fire X2270 サーバーのすべてのドキュメントの PDF ファイル。	http://docs.sun.com/app/docs/prod/servers
Solaris™ 10 OS およびその他のソフトウェアのドキュメント。この web サイトはフル検索機能を備えています。	http://docs.sun.com/documentation/
ディスクッションおよびトラブルシューティングのフォーラム。	http://supportforum.sun.com/
すべての Sun 製品に関するサポート、診断ツール、および警告。	http://www.sun.com/bigadmin/
SunSolve™ web サイト。ソフトウェアパッチへのリンクが含まれています。一部のシステムの仕様、トラブルシューティング、および保守の情報、その他のツールが一覧表示されます。	http://www.sunsolve.sun.com/handbook_pub/
SunService™ サポートの電話番号。	1-800-872-4786 (1-800-USA-4Sun)、オプション 1 を選択します
各国の SunService サポートの電話番号	http://www.sun.com/service/contacting/solution.html
保証および契約サポートの連絡先。その他のサービスツールにリンクします。	http://www.sun.com/service/warrantiescontracts/
すべての Sun 製品の保証。	http://www.sun.com/service/support/warranty

第2章

Sun Fire X2270 サーバーソフトウェアの設定

この章では、サーバーのサービスプロセッサおよび Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) ソフトウェアの初期設定の作業について説明します。この章では、次の項目について説明します。

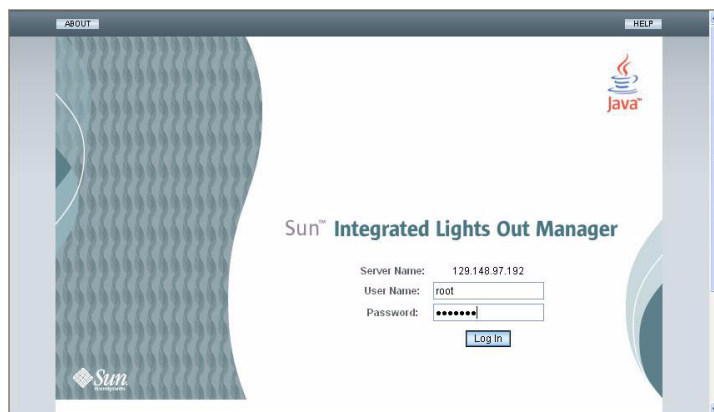
- [16 ページの「Sun Integrated Lights Out Manager の紹介」](#)
- [17 ページの「ILOM サービスプロセッサへの接続」](#)
- [25 ページの「プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアの設定」](#)

注 – ILOM は、オプションのサービスプロセッサ (Service Processor、SP) モジュールを備えるシステムでのみ使用できます。システムが SP を備えていない場合は、[25 ページの「プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアの設定」](#)の手順に進みます。

Sun Integrated Lights Out Manager の紹介

Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、サーバーを管理するための強力なツールです。

図 2-1 Integrated Lights Out Manager ログインページ



ILOM は、4つのコンポーネントから構成されています。そのうちの3つはホストサーバー上にあり、1つはホストサーバーにアクセスするクライアントシステム上にあります。4つのコンポーネントは次のとおりです。

- **ILOM SP ハードウェア。**サーバーが備えるサービスプロセッサは、次の機能を実行します。
 - サーバーのフィールド交換可能なコンポーネント (ファン、ディスクドライブ、電源装置など) の状況および設定を監視します。
 - 外部端末またはローカルエリアネットワーク (Local Area Network、LAN) へのシリアル接続および Ethernet 接続を提供します。
- **ILOM SP ファームウェア。**SP にプリインストールされているシステム管理ファームウェアアプリケーションのライブラリです。この ILOM ファームウェアは、オペレーティングシステムに依存しません。ファームウェアアプリケーションによって、システムに以下のシステム管理インタフェースが提供されます。
 - Web ベースのグラフィカルインタフェース
 - Secure Shell (SSH) コマンド行インタフェース
 - IPMI v2.0 コマンドインタフェース
 - Simple Network Management Protocol (SNMP) v1、v2c、v3 インタフェースこれらのインタフェースは、サービスプロセッサ上のベースとなる同じシステム管理機能と呼び出します。そのため、1つ以上のこれらの ILOM インタフェースで作業するように選択して、データセンターで実行するほかの管理インタフェースと統合することができます。

- **リモートコンソールアプリケーション。**リモートコンソールアプリケーションを使用することで、遠隔クライアントは、ビデオコネクタに直接接続されている場合と同じように、ホストサーバーのグラフィカルコンソールを表示できます。リモートコンソールは、サーバーの VGA ビデオコネクタからの 1024x768 出力のミラーです。遠隔キーボード、マウス、CD/DVD ドライブ、またはフロッピーディスクドライブは、標準の USB デバイスとして表示されます。

注 – クライアントシステムには、リモートコンソールアプリケーションは必要ではありませんが、Web ブラウザと Sun Java™ 実行環境バージョン 5.0 以降は必要です。Java は <http://java.sun.com> から無料でダウンロードできます。

- **クライアント側 Secure Shell アプリケーション。**遠隔 Secure Shell (SSH) から ILOM SP にアクセスするには、遠隔クライアントシステム (サーバー、ワークステーション、またはノートパソコン) 上に Secure Shell 通信アプリケーションをインストールします。Secure Shell 通信アプリケーションは、多くの製品が商業配布またはオープンソース配布されています。オープンソースのクライアント側の SSH アプリケーションについては、<http://www.openssh.org> を参照してください。

Sun Microsystems は、現場でもっともよく使用されるデフォルト設定を反映するように、サーバーの ILOM ハードウェアおよびファームウェアを設定しています。これらのデフォルト値を変更する必要はあまりないでしょう。

ILOM サービスプロセッサへの接続

初期設定および設定を実行するために ILOM SP に接続する方法は 2 つあります。適当な手順を使用してください。

- [17 ページの「シリアル接続を使用した ILOM への接続」](#)
- [19 ページの「Ethernet 接続を使用した ILOM への接続」](#)

シリアル接続を使用した ILOM への接続

ILOM SP へのシリアル接続を確立し、ILOM の初期設定を行います。

▼ シリアル接続を使用して ILOM に接続する

注 – この手順は、[第 1 章](#)で説明されているように、ハードウェア設定がすでに完了していて、スタンバイ電源をサーバーに適用していることを想定しています。

1. 使用している端末、ラップトップ、または端末サーバーが動作していることを確認します。
2. 端末デバイス、またはノートパソコンか PC で実行されている端末エミュレーションソフトウェアを次のように設定します。
 - 8N1: 8 データビット、パリティなし、1 ストップビット
 - 9600 ボー
 - ハードウェアフロー制御 (CTS/RTS) の無効化
 - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
3. サーバーの背面パネルにある RJ-45 SER MGT ポートに取り付けられたシリアルケーブルを、端末デバイスに接続します。このポートの位置については [図 1-2](#) を参照してください。

4. 端末デバイスで、Enter キーを押して、端末デバイスと ILOM SP との接続を確立します。

SP は最終的に次の例のようなログインプロンプトを表示します。

```
SUNSP0003BA84D777 login:
```

このログインプロンプトの例は次のような内容です。

- 文字列 SUNSP はすべての SP に共通です。
- 0003BA84D777 は特定の SP の Ethernet MAC アドレスです。このアドレスは各サーバーによって異なります。

5. ILOM にログインします。

a. デフォルトのユーザー名 (**root**) を入力します。

b. デフォルトのパスワード (**changeme**) を入力します。

正常にログインすると、SP にデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

```
->
```

ILOM のコマンド行インタフェース (Command-Line Interface、CLI) を使用してコマンドを実行し、サーバーのユーザーアカウント、ネットワーク設定、アクセスリスト、警告、およびその他のパラメータに合わせて、ILOM を設定できます。CLI コマンドの詳細な操作方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。

CLI を使用して静的ネットワークを設定する方法については、[22 ページ](#)の「[静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成](#)」を参照してください。

- シリアルコンソールを起動するには、次のとおりに入力します。

```
-> cd /SP/console
-> start
```

注 - **Esc** キーシーケンスを入力することで、シリアルコンソールから SP CLI に戻ることができます。

- [25 ページの「プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアの設定」](#)に進みます。

Ethernet 接続を使用した ILOM への接続

グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface、GUI) などの ILOM の全機能にアクセスするには、サーバーの Ethernet ポートをローカルエリアネットワーク (Local Area Network、LAN) に接続し、Ethernet 接続を設定します。

ILOM は、動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol、DHCP) および静的 IP アドレス指定をサポートしています。

- DHCP を使用して Ethernet 接続を設定するには、[19 ページの「DHCP を使用して ILOM Ethernet 設定を構成する」](#)を参照してください。
- 静的 IP アドレスを使用して Ethernet 接続を設定するには、[22 ページの「静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成」](#)を参照してください。

動的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成

DHCP を使用して Ethernet 設定を構成できます。

▼ DHCP を使用して ILOM Ethernet 設定を構成する

注 - この手順は、[第 1 章](#)で説明されているように、ハードウェア設定がすでに完了していて、スタンバイ電源をサーバーに適用していることを想定しています。

- システム管理者に問い合わせ、DHCP サーバーが新しいメディアアクセス制御 (Media Access Control、MAC) アドレスを受け付けるように設定されていることを確認します。
- Ethernet ケーブルをサーバーの RJ-45 NET MGT Ethernet ポートに接続します。[図 1-2](#) を参照してください。

ILOM SP が静的 IP アドレスを使用していない場合、ILOM SP は MAC アドレスの ID を使用して DHCPDISCOVER パケットをブロードキャストします。LAN 上の DHCP サーバーは、IP アドレスとその他の情報を含む DHCPOFFER パケットを返します。続いて、ILOM SP は、DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスの「リース」を管理します。

3. 次のいずれかの場所から、ILOM SP の IP アドレスを取得します。後から参照できるように IP アドレスを記録します。

- **CLI コマンド。** SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートが用意されています。SP にログインし、CLI コマンド `show /SP/network` を入力します。SP に現在の IP アドレスが表示されます。手順 4 に進みます。
- **システムの BIOS 設定画面。** サーバーの電源投入中に F2 キーを押し、「詳細 (Advanced)」→「IPMI 2.0 設定 (IPMI 2.0 Configuration)」→「LAN 設定 (LAN Configuration)」→「IP 割り当て (IP Assignment)」の順に選択します。手順 4 に進みます。
- **DHCP サーバーのログファイル。** この方法を使用するには、次の手順 a から手順 c に従ってください。

a. 次のいずれかの場所から、ILOM SP の MAC アドレスを特定します。あとから参照できるように MAC アドレスを記録します。

- **CLI コマンド。** SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートが用意されています。SP にログインし、CLI コマンド `show /SP/network` を入力します。SP に現在の MAC アドレスが表示されます。
- **Customer Information Sheet。** このドキュメントはサーバーに同梱されています。
- **システムの BIOS 設定画面。** 電源投入中に F2 キーを押し、「詳細 (Advanced)」→「IPMI 2.0 設定 (IPMI 2.0 Configuration)」→「LAN 設定 (LAN Configuration)」→「MAC アドレス (MAC address)」の順に選択します。

b. DHCP サーバーにログインして、DHCP ログファイルを表示します。

注 – これらのログファイルは、オペレーティングシステムや DHCP サーバーが異なると、保存される場所も異なります。ログファイルの正しいパスについては、DHCP システム管理者に問い合わせてください。

c. ログファイルで ILOM SP の MAC アドレスに対応する IP アドレスを特定します。

通常、DHCP ログファイルエントリは、以下のコンマ区切りのフィールドの独立行です。

ID、日付、時間、説明、IP アドレス、ホスト名、MAC アドレス

正しい DHCP ファイルエントリの MAC アドレス (7 番目の) フィールドで、ILOM SP の MAC アドレスを見つけて、IP アドレス (5 番目の) フィールドの対応する値を記録します。これは、ILOM SP 上のシステム管理ファームウェアアプリケーションにアクセスするために使用する必要のある IP アドレスです。

手順 4 に進みます。

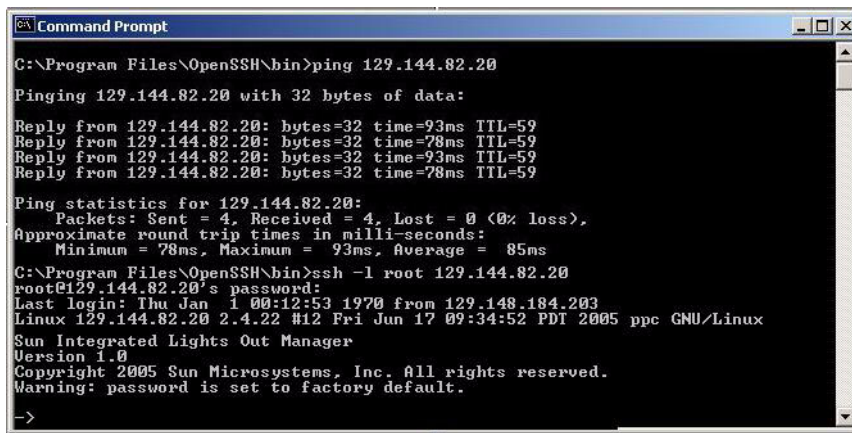
4. 手順 3 で入手した IP アドレスを使用して、ILOM SP へのセッションを開きます。
CLI または Web インタフェースを使用できます。

- ILOM SP CLI への Secure Shell (SSH) 接続を確立するには、SSH アプリケーションで適切な接続コマンドを入力します。たとえば、DHCP によって割り当てられた IP アドレス 129.144.82.20 を使用して SP に接続するには、次のコマンドを入力します。

```
# ssh -l root 129.144.82.20
```

デフォルトのユーザー名は **root** であり、ssh コマンドに含まれています。プロンプトが表示されたら、SP のデフォルトのパスワード **changeme** を入力します。それからは、コマンドを入力して、ユーザーアカウントを管理したり、サーバー上のデバイスの状態を監視したりできます。図 2-2 の例を参照してください。

図 2-2 SSH コマンド行インタフェースでセッションを開く



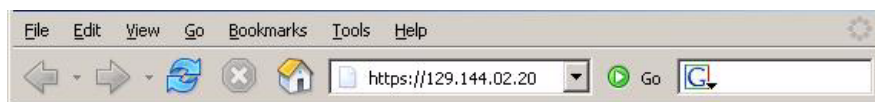
```
C:\Program Files\OpenSSH\bin>ping 129.144.82.20
Pinging 129.144.82.20 with 32 bytes of data:
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=93ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=78ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=93ms TTL=59
Reply from 129.144.82.20: bytes=32 time=78ms TTL=59

Ping statistics for 129.144.82.20:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 78ms, Maximum = 93ms, Average = 85ms

C:\Program Files\OpenSSH\bin>ssh -l root 129.144.82.20
root@129.144.82.20's password:
Last login: Thu Jan 1 00:12:53 1970 from 129.148.184.203
Linux 129.144.82.20 2.4.22 #12 Fri Jun 17 09:34:52 PDT 2005 ppc GNU/Linux
Sun Integrated Lights Out Manager
Version 1.0
Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Warning: password is set to factory default.
->
```

- ILOM SP Web インタフェースへの接続を確立するには、ブラウザのロケータボックスに ILOM SP の IP アドレスを入力して、Enter キーを押します。
たとえば、ILOM SP の IP アドレスが 129.144.02.20 である場合は、図 2-3 のように入力します。最初の Web ページで、デフォルトのユーザー名 (**root**) とデフォルトのパスワード (**changeme**) を求めるプロンプトが表示されます。

図 2-3 Web インタフェースでセッションを開く



5. CLI または Web インタフェースでユーザー名とパスワードを入力したあとは、インタフェースを使用して ILOM SP を構成できます。
システムの構成に関する詳細な方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698) を参照してください。
6. [25 ページ](#)の「プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアの設定」に進みます。

静的 Ethernet 設定を使用した ILOM の構成

DHCP サーバーで ILOM SP に IP アドレスを割り当てる代わりに、静的 IP アドレスを割り当てることもできます。静的 IP アドレスの割り当ては、Web インタフェース、ネットワークまたはシリアルポート経由での CLI、またはサーバーの BIOS 設定ユーティリティーのいずれかを使用して行うことができます。適当な手順を使用してください。

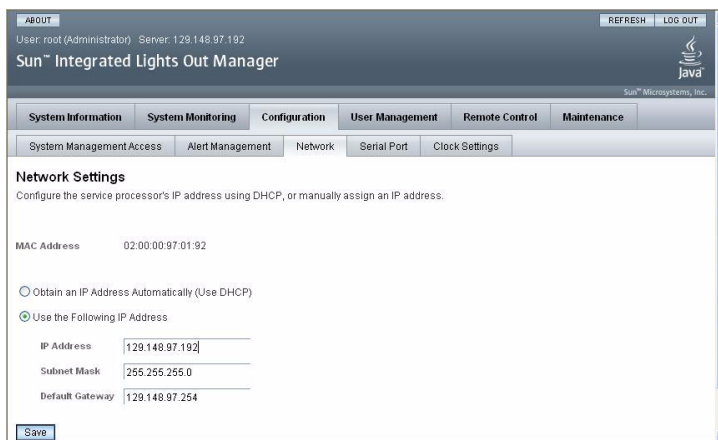
- [22 ページ](#)の「Web インタフェースを使用して静的 IP アドレスを設定する」
- [23 ページ](#)の「CLI を使用して静的 IP アドレスを設定する」
- [24 ページ](#)の「BIOS 設定ユーティリティーを使用して静的 IP アドレスを設定する」

▼ Web インタフェースを使用して静的 IP アドレスを設定する

1. 次のいずれかの場所から、ILOM SP の現在の IP アドレスを判定します。
 - CLI コマンド。SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートが用意されています。SP にログインし、CLI コマンド `show /SP/network` を入力します。SP に現在の IP アドレスが表示されます。
 - システムの BIOS 設定画面。電源投入中に F2 キーを押し、「詳細 (Advanced)」→「IPMI 2.0 設定 (IPMI 2.0 Configuration)」→「LAN 設定 (LAN Configuration)」→「IP 割り当て (IP Assignment)」の順に選択します。
2. 遠隔システム上で実行中の Web ブラウザを使用して、ILOM SP に接続します。
ILOM SP Web インタフェースへの接続を確立するには、ブラウザのロケータボックスに ILOM SP の IP アドレスを入力して、**Enter** キーを押します。例については [図 2-3](#) を参照してください。
ILOM の Web インタフェースのログイン画面が表示されます。
3. デフォルトのユーザー名 `root` とデフォルトのパスワード `changeme` を使用して、Web インタフェースにログインします。

- 「設定 (Configuration)」タブとその「ネットワーク (Network)」タブを選択して、ILOM SP の現在のネットワーク設定に関する情報を表示します。図 2-4 を参照してください。
- 「次の IP アドレスを使用 (Use the Following IP Address)」オプションを選択し、静的 IP アドレスの情報を入力します。図 2-4 の例を参照してください。

図 2-4 Integrated Lights Out Manager のネットワーク設定ページ



▼ CLI を使用して静的 IP アドレスを設定する

- SSH を使用して、またはシリアルポートに接続して、CLI にログインします。
ILOM CLI への Secure Shell (SSH) 接続を確立するには、SSH アプリケーションで適切な接続コマンドを入力します。たとえば、DHCP によって割り当てられた IP アドレス 129.144.82.20 を使用して SP に接続するには、次のコマンドを入力します。

```
# ssh -l root 129.144.82.20
```

図 2-2 の例を参照してください。

- 次のコマンドを入力します。アドレスは実際のものに置き換えます。
次のコマンドで示されているアドレスは例です。

```
cd /SP/network
set pendingipaddress=129.144.82.26
set pendingipnetmask=255.255.255.0
set pendingipgateway=129.144.82.254
set pendingipdiscovery=static
set commitpending=true
```

▼ BIOS 設定ユーティリティーを使用して静的 IP アドレスを設定する

1. システムに電源を投入し、電源投入時の自己診断テスト (Power-On Self-Test、POST) の実行時に F2 キーを押して、BIOS 設定ユーティリティーを起動します。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「詳細 (Advanced)」を選択します。
3. 「詳細 (Advanced)」メニュー画面で、「IPMI 2.0 設定 (IPMI 2.0 Configuration)」を選択します。
4. 「IPMI 2.0 設定 (IPMI 2.0 Configuration)」画面で、「LAN 設定 (LAN Configuration)」を選択します。
5. 「LAN 設定 (LAN Configuration)」画面で、「IP 割り当て (IP Assignment)」を選択します。
6. 「IP アドレスモデル (IP Address Mode)」画面で、「静的 (Static)」を選択します。
7. 「IP アドレス (IP Address)」フィールドに静的 IP アドレスを入力します。
「ESC」をクリックして戻り、サブネットマスクとデフォルトゲートウェイの設定をそれぞれのフィールドに入力します。
8. 「確認 (Commit)」を選択し、Enter キーを押して変更をコミットします。
9. 「更新 (Refresh)」を選択して Enter キーを押し、新しい静的 IP の設定が「BMC 内の現在の IP アドレス (Current IP address in BMC)」フィールドに表示されることを確認します。
10. 「終了 (Exit)」メニュー画面が表示されるまで、繰り返し右矢印キーを押して離します。
11. 「終了 (Exit)」メニュー画面の命令に従って変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了します。

プラットフォームオペレーティングシステムとドライバソフトウェアの設定

ILOM SP のネットワーク設定を行なったあとは、プリインストールされているオペレーティングシステムの設定、またはサポートされている Solaris、Linux、Windows プラットフォームオペレーティングシステムとドライバのインストールを行うことができます。

注 - Solaris 以外の OS をインストールするときは、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することを強くお勧めします。SIA は、すべての必要な OS コンポーネントを自動的に探してインストールします。

- サーバーにプリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムが含まれている場合は、[27 ページの「プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの設定」](#)でサーバーでの Solaris OS の設定方法を参照してください。
- サポートされる Solaris、Windows、または Linux OS および必要なドライバのインストールの詳細については、『Sun Fire X2270 Server Operating System Installation Guide』(820-5606)、『Sun Fire X2270 Server Windows Operating System Installation Guide』(820-7143)、または『Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』(820-6352)を参照してください。
 - サポートされる Solaris または Linux OS をサーバーに手動でインストールして設定する方法は、『Sun Fire X2270 Server Operating System Installation Guide』を参照してください。
 - サポートされる Windows OS をサーバーに手動でインストールして設定する方法は、『Sun Fire X2270 Server Windows Operating System Installation Guide』を参照してください。
 - Sun Installation Assistant (SIA) を使用してサポートされる Windows または Linux OS をサーバーにインストールして設定する方法については、『Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。SIA を使用すれば、SIA メディアを起動してプロンプトに従うだけで、OS、適切なドライバ、および必要に応じて追加システムソフトウェアをインストールすることができます。
- OS に関するこのサーバーに固有のその他の考慮事項については、『Sun Fire X2270 サーバーご使用にあたって』(820-7795)を参照してください。

Sun Fire X2270 サーバーにプリインストールされているオペレーティングシステムを使用しない場合は、この時点で好みの OS をインストールします。Solaris 10 OS が一次起動ドライブにプリインストールされている場合は、Tools & Drivers DVD の Erase Primary Boot Disk ユーティリティを使用して OS を削除する必要があります。

一次起動ドライブの消去については、『Sun Fire X2270 サーバー Linux および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』(820-7786)を参照してください。

第3章

プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステム の設定

この章では、注文によりハードディスクドライブ (または半導体ドライブ) にプリインストールされている Solaris™ 10 オペレーティングシステム (Operating System、OS) の設定手順について説明します。プリインストールされているバージョンは Solaris 10 10/08 以降です。

作業を開始する前に

プリインストールされた OS の設定を行う前に、次の作業を行う必要があります。

1. システムにサービスプロセッサ (Service Processor、SP) モジュールが含まれる場合は、[17 ページの「ILOM サービスプロセッサへの接続」](#)の説明に従って、サーバーの Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサの初期設定を行い、サーバーのネットワーク設定を決定します。
2. [28 ページの「インストールのためのワークシート」](#)に示す設定に必要な情報を調べます。
3. コンソール出力を選択します。詳細については、[31 ページの「コンソール出力の選択」](#)を参照してください。

インストールのためのワークシート

表 3-1 のワークシートを使用して、プリインストールされた Solaris 10 OS の設定に必要な情報を収集します。アプリケーションに適用する情報のみを収集する必要があります。

表 3-1 プリインストールされた Solaris 10 OS のためのインストールワークシート

インストール用の情報		説明または例	回答: デフォルトはアスタリスク (*)
言語		Solaris 10 ソフトウェアで使用可能な言語のリストから選択します。	英語*
ロケール		使用可能なロケールのリストから地理的地域を選択します。	英語 (C - 7 ビット ASCII)*
端末		使用可能な端末タイプのリストから、使用する端末のタイプを選択します。	
ネットワーク接続		システムがネットワークに接続されているかどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークに接続されている ネットワークに接続されていない*
DHCP		システムで動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol、DHCP) を使用してネットワークインタフェースを設定できるかどうか。	<ul style="list-style-type: none"> はい いいえ*
DHCP を使用しない場合には、ネットワークアドレスを記入します:	IP アドレス	DHCP を使用しない場合は、システムの IP アドレスを入力します。 例: 129.200.9.1	
	サブネット	DHCP を使用しない場合、システムはサブネットの一部かどうか。 そうである場合、サブネットのネットマスクを入力します。 例: 255.255.0.0	255.255.0.0*
	IPv6	このマシンで IPv6 を有効にするかどうか。	<ul style="list-style-type: none"> はい いいえ*
ホスト名		システムで選択するホスト名。	
Kerberos		このマシンで Kerberos セキュリティを有効にするかどうか。セキュリティを構成する場合、次の情報を収集します。 デフォルトレルム: 管理サーバー: 最初の KDC: (オプション) 追加の KDC:	<ul style="list-style-type: none"> はい いいえ*

表 3-1 プリインストールされた Solaris 10 OS のためのインストールワークシート (続き)

インストール用の情報		説明または例	回答: デフォルトはアスタリスク (*)
ネームサービス: システムでネームサービスを使用する場合、次の情報を指定します。	ネームサービス	このシステムで使うネームサービスを入力します。	<ul style="list-style-type: none"> • NIS+ • NIS • DNS • LDAP • なし*
	ドメイン名	システムが所属するドメインの名前を入力します。	
	NIS+ および NIS	自分でネームサーバーを指定しますか？それともインストールプログラムによって自動的に指定しますか？	<ul style="list-style-type: none"> • 指定する • 自動的に指定*
	DNS	DNS サーバーの IP アドレスを入力します。少なくとも 1 つ以上の IP アドレスを入力する必要があります。最大で 3 つのアドレスを入力できます。 また、DNS クエリーを行う際に検索するドメインのリストを入力することもできます。 検索ドメイン： 検索ドメイン： 検索ドメイン：	
	LDAP	LDAP プロファイルに関する以下の情報を入力します。 プロファイル名： プロファイルサーバー： LDAP プロファイルにプロキシ資格レベルを指定する場合には、以下の情報を収集します。 プロキシバインド識別名： プロキシバインドパスワード：	

表 3-1 プリインストールされた Solaris 10 OS のためのインストールワークシート (続き)

インストール用の情報	説明または例	回答: デフォルトはアスタリスク (*)
デフォルトルート	<p>自分でデフォルトルート IP アドレスを指定しますか？それとも Solaris インストールプログラムによって自動的に指定しますか？</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間でトラフィックを転送するブリッジを提供します。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する一意の数字です。以下の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定することができます。指定された IP アドレスを使用して、<code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムを再起動すると、指定された IP アドレスがデフォルトルートになります。 • Solaris インストールプログラムに IP アドレスを自動検出させることができます。ただし、ICMP ルーター発見プロトコルを使用してそれ自身を公開するルーターのあるサブネット上にシステムがあることが必要です。コマンド行インタフェースを使用する場合、システムの起動時にソフトウェアが IP アドレスを検出します。 • ルーターがない場合、またはここでソフトウェアによって IP アドレスを検出させない場合は、「なし」を選択することができます。再起動時にソフトウェアは、自動的に IP アドレスを検出しようとしています。 	<ul style="list-style-type: none"> • 指定する • 検出する • なし*
時間帯	デフォルトの時間帯を指定する方法を指定します。	<ul style="list-style-type: none"> • 地理的地域* • GM からの時差 • 時間帯ファイル
ルートパスワード	システムのルートパスワードを選択します。	

コンソール出力の選択

SPARC® システムとは異なり、サーバーの電源を入れてもプリインストールされた Solaris 10 イメージはモニターに出力されません。代わりに、プリインストールされたイメージの出力はシリアルコンソールに送られます。

注 – サーバーが SP モジュールまたはオプションのビデオカードを備えていない場合は、モニターをサーバーのシリアルポートに接続します。ビデオは、SP またはビデオカードを含まないシステムのサーバーシリアルポートにルーティングされます。

オープンソースのブートローダーである GRUB が、デフォルトのブートローダーです。ブートローダは、システムの電源を入れてから最初に行われるソフトウェアプログラムです。

GRUB メニューから、次に示すように、インストールプロセスを VGA 接続 (ビデオポート) に表示するオプションを選択できます。

```
*****
* Solaris 10 10/08 s10x_u6wos_07b X86 - Serial Port (ttya) *
* Solaris 10 10/08 s10x_u6wos_07b X86 - Graphics Adapter *
* Solaris failsafe *
* *
* *
* *
* *
* *
*****
```

注 – この図の 1 行目は、デフォルトの起動モードを示しています。

例

ビデオポートへの出力を表示するには、次のオプションを選択します。

```
olaris 10 10/08 s10x_u6wos_07b X86 - Graphics Adapter
```

プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの設定

注 – システムにサービスプロセッサが含まれる場合は、この手順を実行する前にサービスプロセッサを設定する必要があります。まだ設定していない場合は、[27 ページの「作業を開始する前に」](#)を参照してください。

設定を行うときは、[28 ページの「インストールのためのワークシート」](#)で収集した情報を使用します。

ILOM SP を設定したあとは、別のシステムを使用してサーバーに接続するか、Linux または Windows プラットフォームオペレーティングシステムをインストールして、プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムを設定できます。ここでは使用できる方法について説明します。

- [33 ページの「サービスプロセッサの IP アドレスを使用してサーバーに接続するには」](#)
この方法を使用する場合は、最初にサービスプロセッサの IP アドレスを設定する必要があり、サーバーがネットワークに接続されている必要があります。この手順は、SP モジュールを含むシステムに対してのみ使用できます。
- [34 ページの「端末プログラムを使用してサーバーに接続するには」](#)
この方法を使用する場合は、サービスプロセッサの IP アドレスを設定する必要はありませんが、サーバーとホストシステムのシリアルポートとの間にケーブル接続が必要になります。この手順は、SP を含むシステムでも、SP を含まないシステムでも使用できます。
- サポートされる Linux または Solaris OS と必要なドライバをインストールする場合は、『Sun Fire X2270 サーバー Linux および Solaris オペレーティングシステム インストールガイド』(820-7786)を参照してください。
- サポートされる Windows OS と必要なドライバをインストールする場合は、『Sun Fire X2270 サーバー Windows オペレーティングシステム インストールガイド』(820-7789)を参照してください。
- OS に関するこのサーバーに固有のその他の考慮事項については、『Sun Fire X2270 サーバーご使用にあたって』(820-7795)を参照してください。

▼ サービスプロセッサの IP アドレスを使用してサーバーに接続するには

注 – この手順では、Ethernet ケーブルを使用してサーバーをネットワークに接続していることを想定しています。この手順は、SP モジュールを含むシステムに対してのみ使用できます。

1. システムのシリアルポートの通信プロパティがデフォルトに設定されていることを確認します。

デフォルト設定は、9600 ボー、8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)、フローコントロール無効、です。

2. まだ行なっていない場合は、サービスプロセッサの IP アドレスを設定します。
 - a. サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してから離します。

OS の起動の際に、電源投入時自己診断 (Power-On Self-Test、POST) メッセージが画面に表示されます。
 - b. システムが電源投入セルフテスト (POST) を実行している間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティを開始します。
 - c. BIOS のメイン画面が表示されたら、「詳細 (Advanced)」を選択します。
 - d. 「詳細 (Advanced)」画面が表示されたら、「IPMI 2.0 設定 (IPMI 2.0 Configuration)」を選択します。
 - e. 「IPMI 2.0 設定 (IPMI 2.0 Configuration)」画面が表示されたら、「LAN 設定 (LAN Configuration)」を選択します。
 - f. 「IP アドレス (IP Address)」メニュー項目を選択します。

サービスプロセッサの IP アドレスが次の形式で表示されます。
Current IP address in BMC: xxx.xxx.xxx.xxx

3. クライアントシステムを使用して、サービスプロセッサの IP アドレスに Secure Shell (SSH) 接続を確立し、管理者としてログインします。次のように入力します。

```
# ssh -l root sp_ip_address  
password: changeme
```

サーバーの背面のシリアル管理ポートまたはネットワーク経由の SSH を使用して、ILOM サービスプロセッサの CLI に接続できます。

4. サーバーのシリアルポートにアクセスするには、ILOM サービスプロセッサの CLI に接続します。次のように入力します。

```
-> start /SP/console
```

SP コンソールの起動の確認を求めるメッセージが表示されます。

5. **y** (はい) を入力して **Enter** キーを押し、SP コンソールの起動操作を続行します。
GRUB ブートローダーのメニューが表示されます。
6. サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してから離します。
OS の起動時に、画面に POST メッセージが表示されます。
7. Solaris の出力をサーバーの VGA (ビデオ) ポートで表示するには、[31 ページの「コンソール出力の選択」](#)で示されているように、GRUB ブートローダーのメニューでビデオポートを選択します。
8. SP のシリアルポートのデフォルト設定を変更した場合は、デフォルト設定に戻してください。
9. 画面上の Solaris 10 のプロンプトに従います。
システムとネットワークの情報を指定するときは、[28 ページの「インストールのためのワークシート」](#)で調べた情報を入力してください。

サーバーへのネットワーク情報の割り当てに選択した方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によって、表示される画面が異なります。

システム設定情報の入力後、サーバーが起動プロセスを完了して、Solaris ログインプロンプトが表示されます。Solaris OS の設定については、『Sun Fire X2270 サーバー Linux および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』(820-7786) を参照してください。

▼ 端末プログラムを使用してサーバーに接続するには

注 - この手順は、SP を含むシステムでも、SP を含まないシステムでも使用できます。システムに SP モジュールが含まれない場合は、[手順 4](#) および [手順 5](#) を省略して [手順 6](#) に進みます。

1. ケーブルを使用してサーバーのシリアルポートとホストシステムのシリアルポートを接続します。
2. ホストシステムのシリアルポートの通信プロパティがデフォルトに設定されていることを確認します。
デフォルト設定は、9600 ボー、8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)、フローコントロール無効、です。

3. 端末セッションを開始し、次のいずれかの方法でシリアルポートの出力を取り込みます。
 - Solaris OS を実行しているクライアントで、以下を入力します。
 - `$tip -9600 /dev/ttya`
 - Windows を実行しているクライアントで、Hyperterminal などのプログラムを開始します。
 - Linux を実行しているクライアントで、Linux ディストリビューションに含まれているテキストベースのシリアル通信プログラムである、Minicom などのプログラムを開始します。詳細については、Linux ディストリビューションに含まれている man ページを参照してください。
4. 例えば以下のように、管理者としてサービスプロセッサにログインします。

```
login: root
password: changeme
```
5. 次のように入力して、ILOM SP の CLI を開始します。

```
-> start /SP/console
```
6. サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押してから離します。
OS の起動時に、画面に POST メッセージが表示されます。
7. 画面上の Solaris 10 プリインストールプロンプトに従います。
システムとネットワークの情報を指定するときは、[28 ページの「インストールのためのワークシート」](#)で調べた情報を入力してください。

サーバーへのネットワーク情報の割り当てに選択した方法 (DHCP または静的 IP アドレス) によって、表示される画面が異なります。

システム設定情報の入力後、サーバーが起動プロセスを完了して、Solaris ログインプロンプトが表示されます。Solaris OS の設定については、『Sun Fire X2270 サーバー Linux および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』(820-7786) を参照してください。

Solaris 10 オペレーティングシステムの ユーザー情報

この節では、Solaris 10 オペレーティングシステムに関する情報の参照先を示します。

Solaris 10 OS のユーザードキュメントへのアクセス

次の Web サイトで、Solaris 10 OS の各種ユーザードキュメントを参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10?l=ja>

特に、次の Web サイトでは、Solaris 10 Release and Installation Collection - Japanese にアクセスできます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1267.1>

Solaris 10 OS ソフトウェアのダウンロード

Solaris 10 OS のインストールが必要な場合、または OS を削除後に再インストールが必要になった場合は、次のサイトから CD または DVD イメージをダウンロードできます。

<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>

Solaris 10 OS のインストールに関する詳しい方法については、『Sun Fire X2270 サーバー Linux および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』(820-7786) を参照してください。

Solaris 10 OS のトレーニング

Sun は、ユーザーの個人的スケジュールおよび学習スタイルに適応した、柔軟なトレーニングオプションを提供しています。トレーニングオプションには、インストラクターによるクラス、Web ベースのオンラインのクラス、CD-ROM、およびライブ仮想クラスがあります。Solaris 10 のトレーニングオプションおよび認定オプションの概要については、以下にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/training/catalog/solaris10.html>

索引

D

DVD ドライブ
位置, 7

E

Ethernet コネクタの位置, 5

I

ILOM

Ethernet での設定, 19
サービスプロセッサハードウェア, 16
サービスプロセッサファームウェア, 16
紹介, 16
シリアルでの設定, 18
静的 Ethernet での構成, 22
ソフトウェアコンポーネント, 16
リモートコンソールアプリケーション, 17

Integrated Lights Out Manager
ILOM を参照

O

OS のインストール、参照, 25

P

PCI Express スロット, 5

U

USB コネクタ
位置, 7

く

クライアントサイドの Secure Shell (SSH), 17

こ

固定, 8
この, 27
コンソール, 27

さ

サービスプロセッサ
Ethernet での設定, 19
シリアルでの設定, 18
ハードウェア, 16
ファームウェア, 16
サービスプロセッサへの Ethernet 接続, 19
サービスプロセッサへのシリアル接続, 18
作業, 27

し

システム識別用 LED, 5, 7
障害 LED, 5, 7
シリアル管理ポート, 5
シリアルコネクタ
位置, 5

せ

静的 Ethernet の構成, 22
製品アップデート, vii

て

電源 LED, 5, 7

電源コネクタ, 5

電源ボタン, 7

と

トラブルシューティングの手順, 10

取り付け, ラックへ, 3

ドライバアップデート, vii

は

ハードディスクドライブ
位置, 7

背面パネルコネクタ, 5

背面パネルの LED, 5

ふ

ファームウェアの更新, vii

フロントパネル, 7, 8

ら

ラックへの取り付け, 3

り

リモートコンソールアプリケーション, 17